いる。オカナガン・バレーのさくらんぼは、今年、初めて日本に出荷された（本紙三ページ）。

BC州の食品、食肉による農業収入は、一九八〇年には七億五千五百万ドルに達した。七〇年の三倍である。その内訳は、酪農製品一億七千四百十ドル、食肉一億二千二百万ドル、園芸植物一億八千八百十万ドル、家禽・卵一億二千万ドル、植物油・飼料四千九百九十万ドル、その他一億九十万ドルであった。

水産業

大きいサケの比重
加工・輸出も盛ん

黒潮の流れる太平洋に面し、ロッキーや沿岸山脈の谷間から幾つもの川が海にそそぐブリティッシュ・コロンビアは、大古の昔から漁業（漁労）が盛んだった。沿岸は、ニシン、オヒョウ、シタビラメや、ピンクサーモンなどのサケが豊富で、特にサケはフレーザー川で大量にとれる。

BC州の漁獲高は年間三～五億ドル。冷凍、缶詰、スモークなど関連加工業を含め、漁業は州における基幹産業のひとつである。

漁民一万二千人、漁船七千七百隻。百三十の加工工場に働く三千五百人を含め、陸上で水産関係の仕事に従事する人は六千人を数える。水揚げされる魚は三十種以上。そのうちサケは総漁獲高の六割を占める。カズノコがこれに次ぐ。総漁獲高の六割が、世界三十数か国へ輸出される。そのほとんどが日本向けだ。日本のカズノコ買い占めによる価格変動は、つい数年前のことであった。

BC州沿岸漁場は、長い間、主として外国の大型漁船団による乱獲で荒らされてきたが、一九七七年、二百カイリ漁業水域の設定を境に、政府の魚類資源保護政策が本格化した。魚の人工孵化場、産卵経路の整備、漁獲量制限の実施などがきめ細かく行なわれている。

とくにサケについては、連邦政府と州政府が共同でサケ資源増強計画に取り組み、一九九〇年を目標に放流稚魚を五千万トンに増やし、漁獲量を現在の二倍にまで高めようとしている。

工業・先端技術

資源ベースの製造業
先端産業も端緒に

BC州の製造業部門は、その豊富な資源がベースになっている。林産業、非鉄精錬金属、水産加工品、農産物加工品が、製造業の中心で、そのうち材木、パルプおよび紙がおよそ半分、そして第二の食糧品が一五パーセントを占める。

また木材伐採や製材、合板などに使われる機械や設備、材木や鉱石を運ぶためのトラック、鉱業や建設で用いられる設備機械も製造しており、製造業部門の工場出荷総額は百五十七億ドル（一九八〇年）に達している。

一方、州は先端技術産業の育成にも力を入れている。先端技術産業は、今のところ、BC州の四大産業（林業、鉱業、観光、漁業）と比べてきわめて弱小だが、州としては今世紀末までに一大産業に育てたい意向である。

BC州は、これまでもエンジニアリング・コンサルタントの分野で知られ、林業、鉱業、漁業、発電、運輸、海洋開発、地質化学調査、宇宙工学などにその技術をいかしてきた。このエンジニアリング技術に加えて、最近はブリティッシュ・コロンビア大学、ブリティッシュ・コロンビア工科大学、ビクトリア大学、サイモン・フレーザー大学に研究開発公園（デイスカバリー・パーク）ができているほか、バンクーバーの南約四十キロのホワイト・ロックは、パシフィック・マイクロサーキット社など、二百を超すエレクトロニクス・メーカーや技術研究機関が集中する先端技術センターになっている。

またブリティッシュ・コロンビア大学の核物理研究施設TRIUMFには、素粒子物理学、核物理学、固体物理学などの分野における各種の高エネルギー核素粒子を実験用に製造できるサイクロトン（イオン加速器）を備えており、常時、内外の科学者およそ二百五十人が研究活動を行なっている。TRIUMFでは、今年から、カナダ原子力公社の子会社レイディオケミカル社との生産協定により、米国とアジアに産業用および医療用放射性物質を輸出する予定である。

観光

身近な大自然が魅力
多い外国からの客

太平洋とロッキー山脈にはさまれたブリティッシュ・コロンビア州。温暖な気候に、全長一万二千キロに及ぶ複雑に入り組んだ海岸線、沿岸に点在する六千五百以上の島々、緑濃い森林とそれを背景に美しいスカイラインを描く都市、幾重にも折りなす高峰、そして氷河や渓谷――この州ほど変化に富む美しい自然に恵まれたところも少ない。ブリティッシュ・コロンビア州が、国内だけでなく、米国や日本をはじめ、世界各国から毎年一千万人近くの観光客をひきつけているのも、この気候と大自然の魅力にある。

人々は例えばバンクーバーでは買物や国際色豊かな食事を楽しみ、市内公園と